

形容詞メタファー表現における限定用法の選好：
コーパスの用例に基づく「明るい」の一考察
王 軒・木山 幸子 (東北大学)

1. はじめに

一般に形容詞は、以下のように限定用法と叙述用法の2つの統語的機能を持っている (Dixon, 2004)。

- (1) 明るい月
- (2) 月が明るい
- (3) 明るい未来
- (4) 未来が明るい

例 (1) は、形容詞「明るい」の「光が十分にある」という字義的意味を用いて「月」を修飾し、「月」に備わっている「光がよく見える」性質を表す限定用法である。例 (2) は、「明るい」が単独で述語になる叙述用法であり、「月」の光が「十分に差している」状態を表している。例 (3) と例 (4) では、「明るい」が字義的意味から派生して「希望や喜びがもてる」というメタファー的意味で用いられており、それぞれ限定と叙述の用法である。

形容詞「明るい」のメタファー表現では、「明るい生活」や「明るいニュース」のような限定用法は頻繁に使われるのに対し、「生活が明るい」や「ニュースが明るい」のような叙述用法はやや不自然に感じられる。このメタファー形容詞の例に見られるような、叙述用法より限定用法が選好される傾向は、一般的なものなのだろうか。

日本語の形容詞とメタファーの関係は、これまでに意味拡張と形容詞の修飾の方向性を主眼として論じられることがほとんどであり (坂本・内海, 2007)、上記のような統語構造の選好性についてはあまり検討されていないようである。その中で仁田 (1998) は、形容詞「明るい」において上の2種の統語構造の使用頻度を調べている。小説のコーパスを調査した結果では、限定用法の使用は叙述用法より2倍近く多く見られ、特に属性形容詞については、用法の中心は叙述用法ではなく限定用法にあったという。仁田 (1998) の示した傾向は、「明るい」のメタファーに限らない全般的をも含めた調査によるものであったが、このことはメタファー表現についてもいえるだろうか。本研究は、コーパスから得られた属性形容詞「明るい」を用いたメタファー表現について、字義的表現と同様に、限定用法への選好が見られるかどうか、またそうした統語構造上の選好が意味拡張とどのように関わっているかを検証した。

2. 方法

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の公開形式「中納言」(以下、BCCWJ) から「明るい」を含む表現 6,846 例を抽出し、一貫した基準を定め、1 例ずつ読みながら手作業で字義的用法とメタファー用法を分類した。詩・短歌・箇条書き・メタ言語などは分析対象外として除外した。字義的かメタファー的かの判断は形式に依らず内容で判断しなければならないため、主任評定者 (日本語非母語話者である第 1 著者) と第 2 評定者 (日本語母語話者) との評定者間信頼性 (inter-rater reliability) を確かめた。分析対象の全 6,846 例から 10%に相当する (685 例) をランダムに抽出し、両者が独立して字義的/メタファー的表現の分類作業を行いその判断の一致度を測定したところ、単純一致率は 0.93、標準化された信頼性係

数 (Krippendorff's alpha) は 0.927 であった。この係数はおおむね 0.8 以上あれば評定者間の高い信頼性があると判断できる (Hayes and Krippendorff, 2007) ので、この「明るい」を含む表現の字義的/メタファー的表現の判断も信頼性を保持しているとみなすことができる。

本調査では、除外例 (1,088 例) 以外に、5,758 例が得られた。そのうち字義的意味で用いられている例が 3,178 例、メタファーの意味と判断された例が 2,580 例であった (表 1)。このメタファー的意味で形容詞として用いられている用例のうち、「明るい表情」のような限定用法 (「明るい+名詞」) 1,356 例と「表情が明るい」のような叙述用法 (「名詞+が(に)+明るい」) 483 例に分け、各用例について『角川類語新辞典』(大野・浜西, 2001) の中見出しを利用し、「明るい」の共起語の意味を分類した。得られた 45 種類 (両用法に共通するもの) の分類の各々において、出現頻度と共起名詞のエントロピー (共起パターンの多様性の指標) を算出した。この頻度 (対数変換値) とエントロピーの 2 つの変数に基づいて、「明るい」の共起名詞の意味 45 分類の中で類似性を見出すためのクラスタ分析を行った。これを限定用法と叙述用法のそれぞれについて行い、次に両者の頻度とエントロピーの差 (限定-叙述) を変数とした階層的クラスタ分析を行った。

表 1. 「明るい」を含む表現の意味の分布

字義的意味		メタファー的意味		
用法		限定用法	叙述用法	副詞的用法
用例数	3,178	1,356	483	741
計	3,178		2,580	5,758

3. 結果と考察

図 1 は、「明るい」の限定用法を用いて使われているメタファー表現に現れる共起名詞のエントロピー (y 軸) と各共起名詞の出現頻度 (対数変換値, x 軸) の散布図であり、「明るい」と名詞類 71 個の共起パターンを示している。これらの名詞類のエントロピーと頻度に基づいて階層クラスタ分析を行った結果、5 つのクラスタが見出された。

分類Ⅰは、エントロピーも頻度も比較的高いパターンである。この分類には、「老若 (子)」「親族 (母)」のような「人物」を意味する表現と「明るい」との共起が多い。例えば「老若」の名詞群は、16 種類の名詞が含まれ、「明るい」と 88 回共起する。他に、「音楽 (曲)」「暦日 (年)」などのような名詞群が同様の傾向がある。この分類には、特定の名詞を慣用に使われている一方、全体的に自由な使い方がなされていることを示している。

分類Ⅱには、14 種類の名詞群が含まれた。これらは、頻度が高く、エントロピーは分類Ⅰよりやや共起パターンの多様性が低いものである。ここでは、「明るい」が「表情」の名詞群の 14 種類と 330 回共起している他、「論理 (もの)」「思考 (展望)」「状態 (雰囲気)」などが含まれた。この分類は、「明るい」との共起頻度が高い一方、共起する名詞群と比較的固定された組み合わせで使われる傾向がある。

分類Ⅲに含まれた 15 種類の名詞群は、全体の共起頻度がきわめて低いのに、共起パターンの多様性は分類Ⅱとほぼ同程度である。例えば、「仲間」の名詞群は、全体の共起は 5 パターン (「ラテン民族」「職員」「友達」「仲間」「友」) あるが、それぞれの頻度は 1 回ずつしかない。他の名詞群も同様の傾向があり、慣用にとらわれない自由な使い方がなされていることが示唆される。

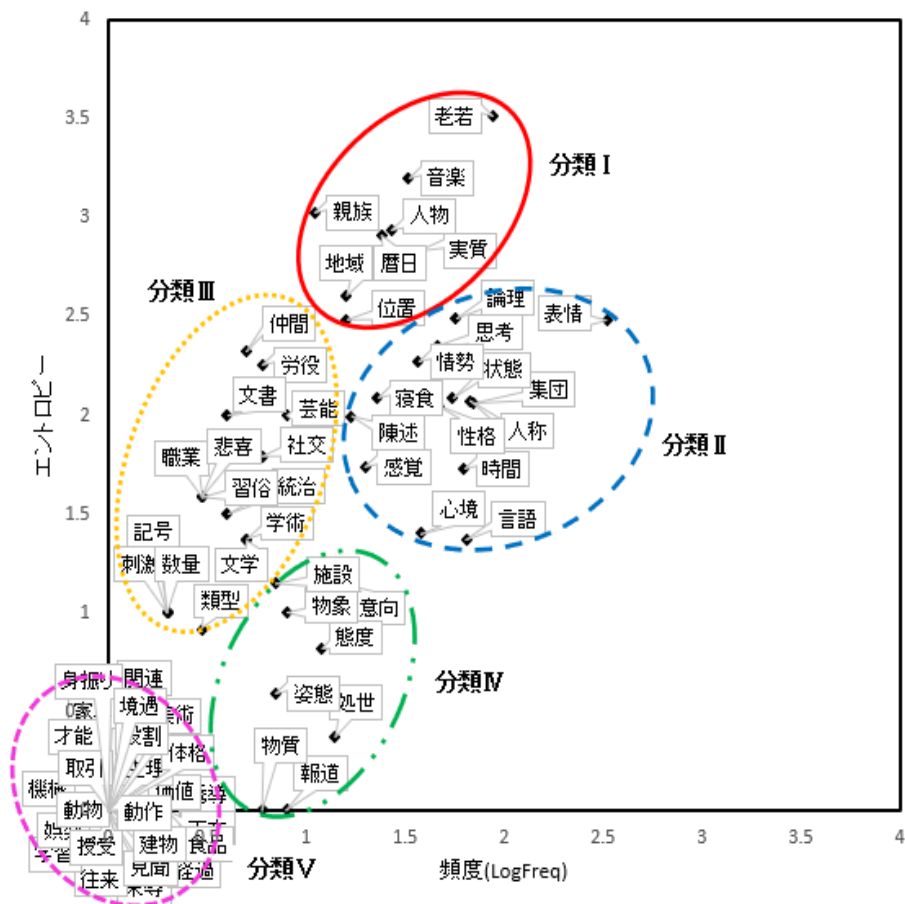


図1. 限定用法を用いた属性形容詞「明るい」と名詞群の共起パターン
注: 楕円はクラスタ分析の結果に基づく

分類IVは、共起のエントロピーも頻度もやや低い場合である。この分類には8種類の名詞群が含まれた。例えば「意向」の名詞群では、「明るい希望」のように共起する頻度が13回（「意向」の名詞群全体の76.47%）と、共起の多様性が低く固定的な共起パターンができていることを示している。その他「物質」と「報道」の名詞群も同様の傾向で、「明るい材料」や「明るいニュース」のような固定的な表現が含まれている。

分類Vに含まれる26種類の名詞群は、エントロピーも頻度も極めて低い場合である。「地位（社長）」「誘導（励まし）」「看病」「天文（夜）」を除くすべての名詞群の出現頻度は1回のみであった。この分類は他の分類とは異なり、特定の名詞と繰り返し共起する傾向がなく、全体的にクリエイティブな使い方がなされていることが示唆される。

図2は、「明るい」の叙述用法で使われているメタファー表現に現れる名詞(主語)のエントロピー(y軸)と各名詞の出現頻度(対数変換値, x軸)による散布図である。「明るい」と54種の名詞類とのエントロピーとその頻度に基づく階層クラスタ分析の結果、5つのクラスタが得られた。

分類Iには、エントロピーも頻度も高い5種類の名詞群が含まれている。例えば「人称」の名詞群は、15種類の名詞が含まれ、「明るい」と98回共起している。他に、「老若（女の子）」「音楽（歌）」などの名詞群も同様の傾向がある。この分類は、全体的に固定されていない組み合わせで多様に使われ得る共起の生産性の高い名詞群であるといえる。

分類Ⅲには、10種類の名詞群が含まれた。使用頻度が高く、共起のエントロピーは分類Ⅰよりやや低い傾向を示している。例えば「明るい表情」のような共起パターンが高い。その他「時間（未来）」「言語（口調）」の名詞群も同様である。総じて、特定の名詞との結びつきが強い傾向にあるものの、比較的自由的な組み合わせで多用されていることを示している。

分類Ⅳは、15種類の名詞群が含まれ、エントロピーも頻度もやや低い共起パターンである。これらの名詞群は、全体の共起頻度が低い傾向を示している。例えば、「陳述」の名詞群は、全体の共起は3パターンあるが、それらの共起頻度は各々1回に留まる。他の名詞群も同様の傾向があり、この分類全体は、共起の多様性が低く、固定化された組み合わせで使われるようだ。

分類Ⅴには、「性格」と「地勢」2つの名詞群が含まれた。この分類は、エントロピーは低いが、共起頻度は比較的高い共起パターンである。「明るい性格」など、特定の名詞と「明るい」との結びつきが強く、慣用的に使われていることを示している。

分類Ⅵには、22種類の名詞群が含まれた。この分類は、全体的には、エントロピーも頻度も極めて低い共起パターンを見せるものである。名詞群「記号（数字）」「才能（技術）」以外では、ほとんどの名詞群と「明るい」との共起頻度は1回ずつしかない。この分類は、図1の分類Ⅴと同じく、共起パターンが固定化されておらず、その頻度も高くない非生産的な名詞群であると考えられる。

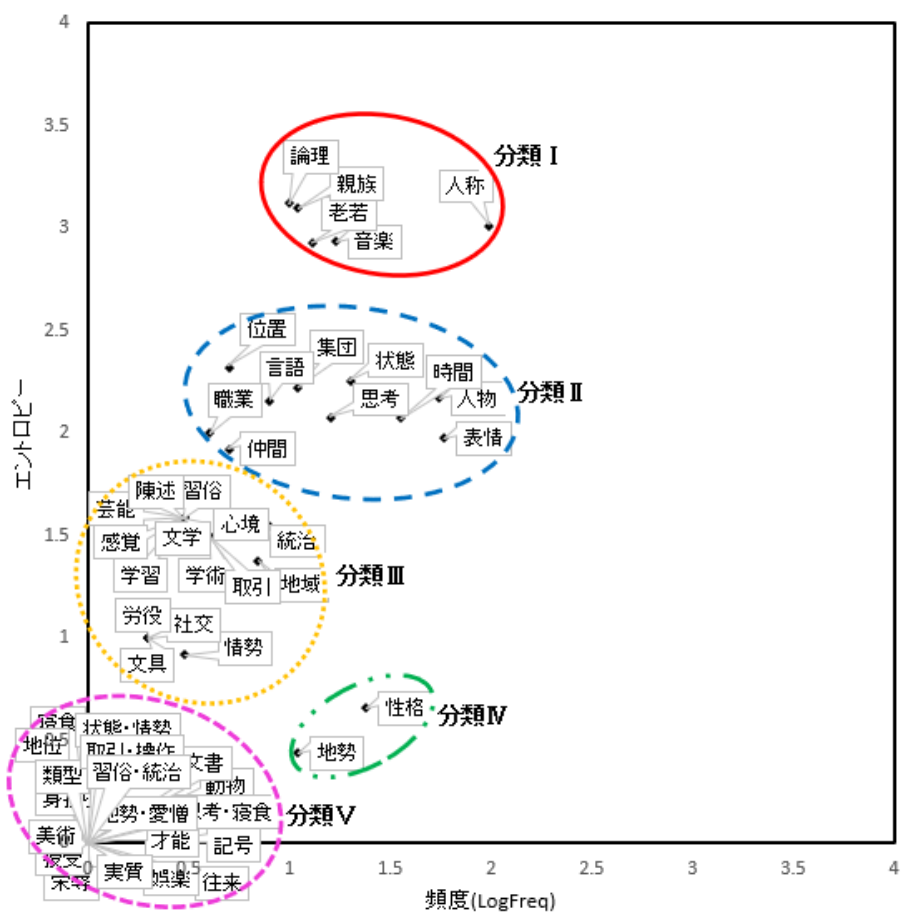


図2. 叙述用法を用いた属性形容詞「明るい」と名詞群の共起パターン
注：楕円はクラスタ分析の結果に基づく

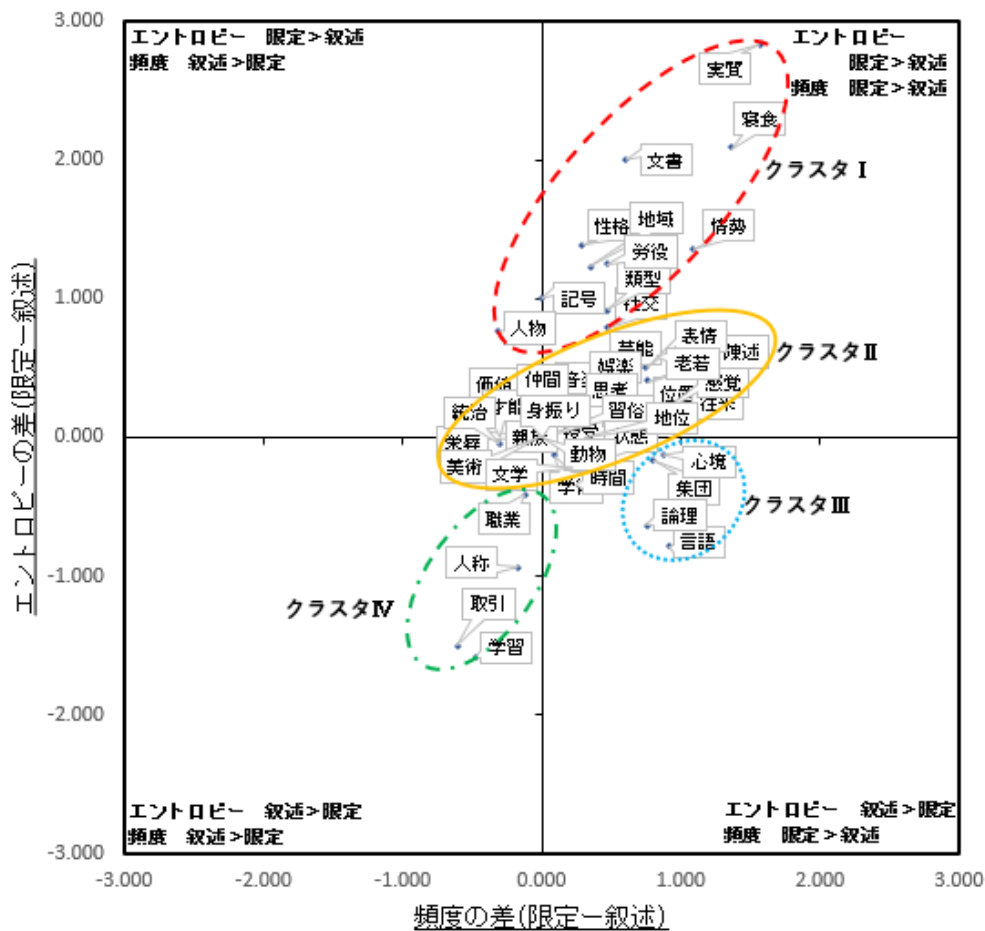


図3. 属性形容詞「明るい」と共起する名詞の多様性と頻度：限定用法と叙述用法の差
注：楕円はクラスタ分析の結果に基づく

このように、「明るい」の2つの統語構造で使われているメタファー表現から得られた名詞群には、共通する共起パターンが3種類ある。1つ目は、両用法の分類IIに相当する「頻度が高く、多様性のある共起パターン」である。このパターンは、ある特定の名詞との結び付きが強いものの、全体のバリエーションが豊富で、メタファー表現を生みやすいパターンであると言える。2つ目は、両構造の分類Vに相当する「エントロピーも頻度も低い共起パターン」である。このパターンは、固定化されておらず、独創的な共起を許しやすいものであることを示している。また、「頻度が高く、多様性がやや低い」3つ目のパターンは、共起の生産性が低く、固定された組み合わせで使われる傾向があるものといえる。

これらの「明るい」の限定・叙述両用法に共通して現れた共起名詞群45種類の意味が、両用法のいずれでより現れやすいかを検討するために、両用法の頻度の差(x軸)とエントロピーの差(y軸)による散布図を描いた(図3)。この散布図では、エントロピーと頻度の両指標が限定・叙述のいずれの用法で値が大きくなるかによって四象限に分かれる。多くの意味分類が第一象限に配置されていることから、メタファーとして使われる属性形容詞「明るい」は、限定用法が圧倒的に好まれ、共起する名詞も多様である傾向が分かる。クラスタI(赤)には、叙述より限定で頻度も共起パターンもとりわけ高くなる共起名詞の意味分類が含まれる。例えば「明るい話題作り(実質)」「明るい人生(寝食)」など、「晴れやか」のメタファーとして用いられるものばかりである。クラスタII(黄)

は、限定・叙述両用法の間に頻度や共起の多様性に大きな差がないものである。クラスタ III (青) は、叙述用法のほうが多様な共起名詞をとるが、頻度は限定用法のほうが高いものである。ここに含まれる「明るい口調 (言語)」などの限定用法は、多用されても共起パターンは固定的であるようだ。クラスタ IV (緑) は、限定より叙述用法のほうが頻度も共起多様性も高いものである。ここに含まれる意味分類は、他のクラスタとは異なり、「精通している」のメタファーで用いられるものばかりである。「国際問題に明るい (学習)」のように、使われる助詞も他のクラスタとは異なる定型表現である。

本クラスタ分析の結果は、総じて、属性形容詞「明るい」のメタファー表現に形容詞一般と同様の限定用法選好性があること、また限定用法でより自由に名詞との共起を許しやすいことを示した。この限定用法の強い選好性には、「論理」(クラスタ III) の意味分類に含まれる「X は明るいものだ」のように、形式名詞「もの」が一つの役割を果たしているかもしれない。「もの」は X が表す具体物・抽象物をいずれも内包する上位範疇であり、「ものだ」は、ある対象の本性や本質を述べる定型表現である (奥田, 2008)。「明るい」とモーダルな表現として形式化した「もの」と共起することによって、日本語におけるメタファー表現の調子を整えていると考えられる。形式名詞「もの」の表現機能が、形容詞メタファー表現における限定用法の選好と関わっていることが示唆される。

4. 結論

本研究では、メタファー形容詞の統語構造上の選好と、その形容詞の意味拡張との関わりを考察した。その結果、属性形容詞「明るい」を用いたメタファー表現に限定用法への選好が見られた。「明るい」のメタファーとして一般的な「晴れやか」、「希望を持つ状態」、「公正」という意味は、限定用法においてより好まれ、より多様な名詞と共起し得ることを例証した。ところが、「精通している」というメタファー的意味では、「～に明るい」という定型表現で使われる叙述用法がほとんどであった。また、本調査では、「生活が明るい」のような非典型的と予想された叙述用法のメタファー共起表現は 1 例も得られず、限定用法でしか使えないものがあることが確認できた。今後、このような特定の名詞との共起における統語構造の偏りについての検証が求められる。

参考文献:

- 大野晋・浜西正人 (1981) 『角川類語新辞典』 東京：角川書店。
仁田義雄 (1998) 「日本語文法における形容詞」『月刊言語』 27(3): 26-35。
坂本真樹・内海彰 (2007) 「色彩形容詞と名詞の相互作用による色彩形容詞メタファーの認知効果」『認知科学』 14-3: 380-397。
奥田智樹 (2008) 「「もの」の本義について」『言語文化研究叢書』 7: 15-28。
北原保雄 (2010) 『日本語の形容詞』 東京：大修館書店。
Dixon, Robert M. W. (2004) Adjective Classes in Typological Perspective. In Dixon, R. M.W. ed, *Adjective Classes: A Cross-linguistic Typological*: 1-49. Oxford University Press.
Hayes, Andrew F. and Klaus Krippendorff (2007) Answering the call for a standard reliability measure for coding data. *Communication methods and measures* 1: 77-89.